

学 会 名

第31回日本慢性期医療学会
(2023年10月19・20日)

研究テーマ

「また店に立ちたい」脳血管疾患を呈した症例 ～本人の意思に寄り添って～

病 院 名

医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演 者

○阿部未奈(理学療法士) 首藤佑介(理学療法士) 関まりな(作業療法士)
西城真彩(言語聴覚士) 伊東貴広(理学療法士)

概 要

【はじめに】

今回、両側変形性膝関節症があり、右脳梗塞呈したことにより歩行が困難となった症例を担当する機会を得た。

自営業でご本人が経営すべてを行っていたため、現状の身体機能を理解できず精神的に不安定となった。

店の心配のため早期退院を望まれたため、ご家族・多職種連携を密に行い、本人の意思を尊重して早期退院・復職が行えた症例について報告する。

【症例紹介】

男性・70代、妻と2人暮らし。

自営業（弁当屋）を営んでいた。

入院前のADLは全て自立（要支援1）。

屋内独歩、屋外T字杖を使用。

X月Y日右脳梗塞（放線冠付近）を発症。

BRS上肢VI手指VI下肢VI。疼痛、運動時に両膝内側。

NRS（右/左）：2～3/3。

入院時FIM合計82点

（運動項目53点、認知項目29点）。

移動手段車椅子介助。

【経過】

リハビリには意欲的で、歩行練習を行っていった。

入院2週間経過したあたりから、妻に経営面を全て任せる形となり、お店への不安が出現し、早期退院を希望され、易怒的となる場面が見受けられた。

移動手段が車椅子の状況でも自宅に帰ることを希望され、「もう店には立たない」「ベッドに横になってるから」と悲観的な発言が聞かれた。

主治医を中心に多職種と相談を行い、今後の見通しについて本人・家族に説明を行い、精神的なフォローを行った。

移動手段の獲得に伴い、「また店に立ちたい」、「郵便局に歩いて支払いに行きたい」と前向きな発言が聞かれた。

【結果】

移動手段を屋内ピックアップ歩行器、屋外は制動付き歩行車を利用し、膝痛があるため屋外はご家族と一緒に頂くことになった。

復職については、動作指導と休憩場所を設けた。

退院時合計FIM115点

（運動項目84点、認知項目31点）。

【考察】

本症例は、麻痺自体は軽度であったが、病前の変形性膝関節症の影響が強く移動手段に影響していた。

本人の焦燥感によって退院希望は強くなり、妻は退院後の生活に不安を持った。

本人・家族に定期的な現状説明を行い、退院後の不安を取り除いた。